走れ!きぼう GO　No.2

たかつきライブラリーフレンズ

2018年3月20日発行

草木も弥々生い茂る、弥生三月となりました！いつもご支援ありがとうございます。
みなさまの思いをのせて「走れ！きぼうＧＯ」２号をお届けすることができました。
多くの人たちと共感を持ちつつ、図書館と共にあゆんでいきたいという願いをこめて、
このたび本会の名前を**「たかつきライブラリーフレンズ」（TLF）**に改称いたしました。
草の実がさまざまな地で根を下ろしますように、これからも、みなさまの声をお聞かせください。
「きぼう GO だより」がひらかれた多様な「声のひろば」になりますように。

講演会を開催します。ぜひお声掛けのご協力をお願いします。
また、お誘いあわせのうえ、ご参加もおまちしております。

かまくらさちこ
鎌倉幸子さん講演会

「本でよりそう復興支援 -移動図書館だからできること-」

日時：2018年6月24日（日）１０時～１２時（開場　９時半）

場所：生涯学習センター　３Ｆ第２会議室

（高槻市総合センター（市役所･図書館併設）

資料代：会員 500 円・一般 800 円　定員：50 名

鎌倉幸子さんプロフィール
もとシャンテイ国際ボランティア会。
東日本大震災において、「岩手を走る移動図書館プロジェクト」で復興支援を展開。
アカデミック・リソースガイド㈱取締役
著書に『走れ！移動図書館　～本でよりそう復興支援　～』(筑摩書房　2014 年)ほか。

申込み：「たかつきライブラリーフレンズ」
事務局　森井弘子　072-674-6729
メール　morii-thke@ares.eonet.ne.jp
*必ず件名に**「講演会申し込み」**と記し、本文にお名前・連絡先をご記入下さい。*

会報　No.2　目次

Ｐ２-３　特集「移動図書館協力プラン-その現況と地域の思い-」「上牧・五領地区」「樫田・原地区」
Ｐ４　平成 29 年度市議会　12 月定例会一般質問　図書館関連（抜粋報告）、プチニュース
Ｐ５　「こんなところに移動図書館」　～大阪市自動車文庫
Ｐ６　「こんな本いかが？」　「読者の声」　など

特集「移動図書館協力プラン　-その現況と地域の思い-

2017 年 11 月 2 日、「高槻の移動図書館再開をもとめる会―走れ！きぼう号」の発足会を兼ねた報告会において、移動図書館協力プランを紹介しました。このプランでは、住民からの再開への強い希望があり、また図書館分室の設立が望まれる遠隔地区として、以下の４ヶ所を挙げました。

（下図参照）

きぼう号巡回先 23ステーション

1 上牧・五領	2 樫田・原	3 南大冠・竹の内	4 三箇牧・柱本

会報では、きぼう号が来なくなって困っているこれらの各地域にスポットをあてて紹介し、現況などを含め、寄稿してくださった記事やインタビューをお届けします。

今回は、上牧・五領地区と樫田・原地区を紹介しましょう。

1　上牧・五領地区

きぼう号ステーション
★五領小学校
★東上牧二丁目つばき公園

移動図書館の利用者が市内で一番多い地域。
かねてから図書館設置が望まれている地域でもある。
旧ステーションは住宅地内公園のため、
雨対策として公共施設を検討してほしい。

長年、この地域で文庫活動をされているOさんたち。
移動図書館がこなくて困っているお年寄り宅を訪問し、おなじみの黄色いカゴに本を積め、それをもって、おひとり、おひとりに届けておられます。
「出前文庫」と呼んでおられるとか。とても、喜んでくださって、おはなしも弾みます。早く再開してほしいという声もよく耳にするそうです。
素敵な活動。でも再開を待ち望んでおられる気持ち伝わってきます。

2　樫田・原地区

きぼう号ステーション
★樫田小学校
★原公民館

たかつきの「とかいなか」。市内最北端地区。
原地区の小学校の分校が、廃校後公民館になっている。
知的障がい者施設などがあり、近隣の高齢者の利用も多い。

特別寄稿：樫田から考える、「きぼう号」への「希望」　　**友遊の里理事長・堀切きみよ**

私は２年前から、樫田の知的障がい者事業所を運営する社会福祉法人の理事長としてここに関わるようになりました。

この地域は、自然の中で子ども達がのびのびできる環境の良さが魅力で、樫田小学校は高槻市内全域から通える「特認校」として人気です。しかし地域の児童は減少傾向にあり、地域内の友達の家でも何キロも離れていて大人が車で送迎しなければ行き来できません。樫田に移住した友人家族は、地域の人の温かさに触れながら古民家での生活を楽しむ反面、高槻市内で唯一学童保育がないなどの不便な状況があるといい、子育て支援の充実を行政に何度も相談。地元の連合自治会長さんも「空き家情報バンク」に留まらず、子育て世帯が移住しやすい環境整備をとうったえています。

樫田で共通の課題に取り組むこのお二人が、事業所の評議員を引き受けてくださったのを契機に、地元の課題を広く共有すべく、**「樫田の未来を語ろう」会**を一昨年から始めました。

樫田と一口に言っても五ヶ村あり、それぞれ特性があります。回を重ねるごとに共有すべき課題が整理されてきたと感じていた中、「きぼう号」が休止となりました。地域内の人口自体が減少し、「きぼう号」ステーションまで来る手段の無い高齢者も多いことを考えると、利用者が少数なのは明らかです。

「そうであればいっそう、住民のニーズに合った在り方や利用手段を考えてほしい。」
「図書館の問題だけでなく、市街地から遠いが故に、いろんなことが不足し不便を強いられているのに、この上更に切り捨てられる感じがする」
「『どっちも高槻』というなら、『どっち』に住んでも不公平感のないようであってほしい」

むしろ不便なところだからこそ、移動図書館が**「やってくる」**ことに新たな付加価値を見出し、コミュニティ活性化に役立てる可能性も考えられます。たとえば移動図書館のステーションで、健康相談や生活相談、行政の情報発信をする、私たち障がい者施設の利用者が授産品を販売して交流の場にできたら楽しいだろうなあ、一人暮らしの人の安否確認にもつながるのでは？ 樫田が海外にあるようなお洒落な移動図書館の拠点になれば、住んでみたいと思う人も増えるのでは？

たとえば本の整理や積み込みの手伝いなどは、元気な高齢者や、障がい者、若者などの就労支援や社会参加の機会にできないでしょうか。

「きぼう号」をよりよく存続させ、本と文化による新たな希望を生み出すことを、官民一体となって取り組んでいけたらと切に願います。

（ご本人の了承を得て、一部編集させて頂いています）

平成 29 年度高槻市議会 12 月定例会にて
4 議員が図書館関連 一般質問！

「走れ！きぼうＧＯだより」No.1 を市民の声としてお届けしたところ、熱心に関心をもっていただき、2017 年 12 月 19 日、20 日の一般質問で四人の市議が取り上げてくれました。その一部の骨子を紹介します。

司書の職員数

（「70 人→68 人平成 29 年 4 月の段階で 64 人で適切に必要数を配置」の市の答弁を受け、）必要数を適切にと言われたが、3 年間で 1 割減少。5 館あっても、それぞれに司書の任務も異なる。
今回の新事業で果たして、何人の司書が必要か、もう少し精緻につめていくことが大切。

司書の待遇、病気療養などの保証、働き続ける環境づくりが必要ではないか。

労働条件だけでなく、フィールドとしても新たな企画のとき、司書配置は計画的な見通しが必要。

図書館の根幹にかかわることなので、しっかりと議論していただきたい。

移動図書館

移動図書館は図書館サービスの真髄。

正規の司書や専門性を持つ館長が望ましい。協議会では移動図書館廃止に異議を唱える人が多い。これを否定することはできない。代替案はサービス低下。ニーズが高い地域がまだまだあるので再開を！

図書館協議会

「図書館でボランティア活動をしている人たちからも多く協議会の委員を任命してほしい。

国の予算措置

国にも予算措置を要求してほしい。

市民アンケート

9 月実施のアンケートから〈新しいまちごと図書館を利用したいか〉の提案があったが、その取り方に問題はなかったか。対象は、廃止されては困る移動図書館利用者にを絞って問うべきではないか。

移動図書館の利用者数は減少しつつあっても、再開のためになぜ「まちごと図書館」案が出たのか。図書館協議会では移動図書館廃止に異議を唱える人が多かった。

これらを否定することはできない。

「まちごと」が不調に終わったら、移動図書館を再開させるんだ・・そのくらいの意気込みをもって臨んでもらいたい。遠隔地や移動図書館利用数の多い地区、たとえば上牧・つばき公園地区は、23 ステーションある中で、利用率は 3 倍である。
休止したことによる不便な部分もしっかりと対応していただきたい。専門職は、近隣の豊中、枚方などきっちり正式採用をしている。

ぜひ正職採用を検討していただきたい。
何をやるべきか、しっかりと取り組んでほしい。

2018 年 3 月、現在開催中の定例本会議質疑において、二人の議員から図書館関連での質疑応答がありました。議会での詳細は、**『高槻にみんなの図書館をつくる会』**会報をぜひご一読下さい！

（各図書館チラシ置き場にて配布あります）

プチニュース♪

会員の岩出景子さんの短歌が２９年度ＮＨＫ全国短歌大会「秀作」に入賞されました。応募数２万首からの選考突破。お見事！移動図書館をモチーフにした素敵な歌ですね♪

たまご色の
移動図書館
山合いを
見えかくれ行く
光りをのせて
岩出 景

こんなところに移動図書館

大阪市自動車文庫　紹介

大阪市立図書館の自動車文庫事業は、2017 年 10 月に おかげさまで事業開始 50 年を迎えることができました！

2 台のまちかど号で、月 1 回市内の巡回場所をまわっています。まちかど号には、あかちゃんからたのしめるえほん、こどものよみもの、料理や趣味の本などの実用書、小説・エッセイ、大きな活字の本などをつんでいます。

どなたでも簡単な手続きで本を借りて頂けます。

どうぞお気軽にお立ち寄りください。

【大阪市立図書館　ＨＰより】ご許諾を得て転載させて頂いています。

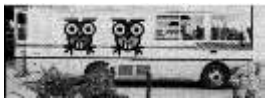
1967 年 10 月に 2t 積貨物トラックによりスタートした移動図書館ですが、1968 年から専用自動車による運行を開始し、1976 年からは 2 台の車で巡回しています。長年にわたって市民の皆様に支えられ、2017 年 10 月で 50 周年をむかえました。2017 年 4 月には、まちかど 2 号車が新しくなり、まちかど 1 号車とともに市内各所を走っています。巡回場所でご利用をお待ちしております。

1967 年（昭和 42 年）10 月
2t 積貨物トラックによる配本開始。図書はダンボール箱に背文字が上になるように荷台に積んでいました。

1968 年（昭和 43 年）1 月
専用自動車による配本開始 850 冊積載できる小型自動車です。

1971 年（昭和 46 年 7 月）
まちかど号の誕生
マイクロバスの改造車で
積載冊数は 1, 300 冊になりました。

1976 年（昭和 51 年）10 月には 2 号車が誕生し、2 台体制での運行が始まりました。



1988 年度（昭和 63 年度）に更新した 2 号車は、積載冊数 2, 900 冊と、現在の車の大きさになりました。知恵の象徴フクロウが本を読んでいるデザインが描かれています。

1998 年度（平成 10 年度）に更新された 2 号車は、トラックの改造車で、車いす用リフトが装備されています。

現在はこちらの 2 台のまちかど号が、市内各所を走っています。巡回場所でご利用をお待ちしております。

こんな本いかが？

■アフロ他写真『世界の美しい図書館』パイインターナショナル，2014 年

ドイツのケルン市の公園にある 18 ㎡ほどのミニビブが素敵なのです。コンペで選ばれた学生の作品だそう。グリーンの外観が街なみにピッタリ。樫田にこんなミニ図書館がほしいね♡
（写真左）

■門井慶喜著『おさがしの本は』光文社文庫，2011 年

2017 年直木賞受賞作家が描く、ワクワクハラハラの図書館ミステリー！職員によみがえる本と仕事への情熱と希望に、胸が熱くなります。

読者の声

◆小学生の頃、移動図書館が来るのは１ヶ月に１回の楽しみで、「何の本かりた？」などとみんなで話題を共有できました。ドラマもコミックも見ない子だったので、他に共通の話題が無かったのです。唯一、移動図書館で借りる本のことは話題になりました。天神山の図書館に一人で行けるようになったのは、高校生になってからです。どうしても親の同伴の車でないと、図書館まで行けません。車だと買い物ついででしたので、駐車場を常に心配し、満車で図書館に寄れない時はかなしい思いをしました。

（出灰在住　20 代）

◆私は素人ですが、なんとなく、移動図書館だけではダメなような気がします。たとえば、何かと組み合わせたほうがいいように思います。１）遠隔地に図書館の増設と共に　２）地域の小学校、公民館、集会所、デイケア施設内などで図書コーナーを設置　３）それらと移動図書館と連携して定期的に図書を交換するシステム　４）そして必要となる書籍あるいは書籍購入費については、市民に不要書籍の寄付をお願いするなど、高槻市が真剣になって市民の協力を得られるシステムを考えるのはいかがでしょうか？こんなことを友人と話したりしたので、つい綴ってしまいました。

（桜ヶ丘北町 60 代）

◆会報を届けて下さり、有難うございました。たくさんの意見を読みながら、かつて給水塔の所に、きぼう号がきてくれ、親子でそれは楽しみにしていたことを思い出しました。皆さんの貴重な熱い思いがいっぱい伝わってきました。こんな様々な声を聴きたいです。今後も会報楽しみです。

（大塚町 50 代）

フェイスブック更新中！情報満載です。ぜひアクセスを！

https://www.facebook.com/kibougo/

2018 年３月 20 日　発行
編集・発行　たかつきライブラリーフレンズ（ＴＬＦ）
（前「高槻の移動図書館再開をもとめる会―走れ！きぼう号」）
高槻市月見町 7－30　廣田方　　事務局　垣口・角所・森井
coire2004@hotmail.com